



J.A.C .樹護士アーボリスト®チャレンジ 2026 ルールブック

ThrowLine &
Rope
Installation

Arborist Tree
Climbing

Rigging &
Load Transfer

Arborist
Aerial Rescue

JAC 樹護士アーボリスト®チャレンジ参加資格

- ・1 チーム5名（7名まで） ＊ただし各競技同時に出場できる選手は5名まで
- ・チームの構成メンバーの1人は必ず樹護士アーボリスト資格取得者
- ・それ以外のメンバーはATIのBAT-1 及び BAT-2 を修了した方

Throw Line & Rope Installation

（スローラインを使いクライミングロープを設置及び回収する。）

状況説明

- ・高さ5～20mの間に7～10か所のスローラインで狙うアンカーポイントをマーキングしてある。
- ・ヘッドジャッジが指定した競技エリアは選手とジャッジしか入れないように囲われている。

競技説明

チームで協力してアンカーポイントを5か所選定し設定をおこなう。

ヘッドジャッジの合図で競技がスタートする。対象のアンカーポイントにスローラインをかけMRSをセッティングできる状態にするとポイントが得られる。さらにロープに変えるとさらにポイントが得られる。ロープとスローラインを回収するとさらにポイントが得られる。

最初の10分はスローライン～ロープセッティング～回収までが可能だが、残り5分は回収のみしか行うことができない。 標準競技時間は15分

ルール

- ・出場チームは選手5名が揃わなくてはならない。5分以上の遅刻で出場権がなくなる。
- ・出場チームはPPEを正しく装着していなければ、場内へ入ることができない。
- ・スローラインセットはチームで準備する。ただし、持込めるスローラインセットは下記とする。
スローライン3本まで、スローバックは5つまで、スローライン連結等に使用するカラビナは2つまで
- ・ロープ・フリクションセーバーはあらかじめフィールドにあるもののみを使用する。
ロープ5本、ハウススリーブ5本、リングセーバー5本
- ・競技エリア外へのスローは1回警告、2回目以降減点。投げたスローバックが人（チームメイト、観客）に当たってしまった場合は失格（ジャッジは除く）となる。

競技開始

- ・全員がそろったところでヘッドジャッジの合図で時計はスタートする。
- ・コール、コールバックをしていないとみなされれば減点される。

スロー

- ・何人でも同時にスローしてもよい。

- ・スローラインは1人何投でも投げることができる。
- ・スローするときにチーム全員がスローする人を見てコールバックをしなければいけない。（ノールックOKの禁止）
- ・スローラインはアンカーポイントの直下にMRSをセッティングできる状態にし、ジャッジに「スローラインOK?」とコールしなくてはならない。ジャッジの「OK」コールバックによりのポイントが得られる。アンカーポイントにより得られるポイントが異なる。（5、10、15点）
- ・スローバックの回収時、落下させる行為は減点、**コールなしに落下させたら失格となる。**
- ・スローバックテクニクは何度行ってもよい。
- ・ロープスロー（ロープを直接投げる手法）は行ってはいけない。
- ・スタックは減点対象になるが時間内に回収できれば減点にならない。
- ・折れ枝は直径1センチ以上で減点となる。大きな枝を折ってしまった場合は大きな減点となる。
- ・一度スローラインをセットしたアンカーは回収後でも再度使用してはならない。
- ・5か所以上をスローラインを設置しても加点されない。
- ・スローラインの「OK」コールバックがなされればロープに変えることができる。

ロープセッティング

- ・ロープは必ずフリクションセーバーを使用しなくてはならない。
- ・フリクションセーバーはハウススリーブ、リングセーバーが用意されている。用意されているものを適時選択し、ハウススリーブ5点、リングセーバーは10点の点数が入る。
- ・ロープをかけたら2人分の体重をロープにかける「プルチェック」を行い、ジャッジに「プルチェックOK?」とコールしなくてはならない。ジャッジの「OK」コールバックによりのポイントが得られる。プルチェックポイント5点
- ・セッティング時のロープ、フリクションセーバーの落下のペナルティー1回目は減点2回目は失格。リングセーバーの落下は失格。

回収

- ・プルチェックが終わっているロープは回収することができる。
- ・ロープの回収はロープをロープバッグに収納しなければ点数にならない。
- ・スローラインの回収はラインキューブ等に収納しなければ回収の点数にならない。
- ・ロープ、フリクションセーバーの落下のペナルティー1回目は減点2回目は失格。リングセーバーの落下は失格。フリクションセーバーを樹上に残した場合はその場所の点数は入らない。

時間

- ・スタートから10分を経過後は、回収をしなくてはならない。
- ・選手は走ってはいけない。もし走ったとみなされた時は、ジャッジが10秒カウントするまで、**走った選手は動くことができない。**何度走っても減点にはならない。
- ・競技会場や設定により競技時間が変更になる場合がある。

① スローライン & ロープインスタレイション スコアシート

チーム名				ジャッジ名	
制限時間（15分）	開始	時 分	終了	時 分	所要時間

ロープセッティング 10分以内						
アンカー	1stアンカー	2ndアンカー	3rdアンカー	4thアンカー	5thアンカー	
スローライン	5,10,15	5,10,15	5,10,15	5,10,15	5,10,15	
ロープに変更	5	5	5	5	5	
セーバー	5 10	5 10	5 10	5 10	5 10	
プルチェック	5	5	5	5	5	
ジャッジポイント テクニック	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	
ジャッジポイント チームワーク	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	0 1 2 3 4 5	小計①
計						
終了時間	時 分					

回 収 5分以内						
開始時間	時 分					
アンカー	1stアンカー	2ndアンカー	3rdアンカー	4thアンカー	5thアンカー	
回収	5	5	5	5	5	
フックションセーバーを樹上に残した場合はそのアンカーはセッティングからすべて0点					小計②	

ジャッジは↓ここに正の字で書き、集計をし、右側に点数を書いてください。

ノーコール・ノーコールバック（－1）					
スタック（－5）					
スローバックの落下（－2）（コールなしDQ）					
場外スロー	－3	警告	スローバックを人に当てる	失格	
枝折れ小（－1）					
枝折れ大（－5）					
セッティング時の落下	－3	警告	回収時の落下	－3	失格
				小計③	

チームワーク	－5	0	5	10	15	
					小計④	

総合得点（小計①＋小計②＋小計③＋小計④）					点
-----------------------	--	--	--	--	---

Arborist Tree Climbing

(安全に樹上ヘクライミング。ツリーワークの各道具を設置。リギングを行い回収する。)

状況説明

- ・高さ 10～15m 付近にクライミングアンカーとして使用するためにスローラインがかかっている。
- ・高さ 5～8m 付近にリギングブロックが設置されている。
- ・高さ 4～6m 付近にリギングの対象となる枝の両端にテープ（黄色）がまかれている
- ・対象となる枝の長さは 2m～5m、重さは 80 kg～180 kg の範囲で会場により変更となる。また高さも、会場および樹木により変更になることがある。
- ・地上にはブロック 1、フリクションコントロールデバイス 2、デットアイスリング 2、ループスリング 1、ウーピースリング 1、E2E プルージック 1、スチールカラビナ 3、約 10m のリギングロープ 1、45～60m のリギングロープ 2、刃のないチェーンソーが置かれている。状況により数は変更する。
- ・ヘッドジャッジが指定した競技エリアは選手とジャッジしか入れないように囲われている。

競技説明

場内に入った時点で時計はスタートする。グラウンドテクニシャンはプランニングを説明する。指定されたアンカーでクライミングを行い、枝先に移動してリムトス（5 本）をする。地上の目標は 3 か所。その後ロードとなる枝にリギングロープをセッティング、必要とあればタグロープをセッティングする。クライマーがチェーンソーで適切な切り方で模擬し、鈴を鳴らす。リギングのセッティングを元のように解除して地上もとの場所へ戻し、クライミングロープを回収し元のスローラインへ戻す。全員が場外に出た時点で時計が止まり競技終了とする。標準競技時間は 20 分～30 分。

ルール

競技前

- ・出場チームは全員が揃わなくてはならない。5 分以上の遅刻で出場権がなくなる。
- ・ヘッドジャッジの合図で競技時間がスタートする。
- ・出場チームはクライミングの道具（ロープ、フリクションセーバー、サドル、ランヤード、ノコギリ、etc）最大 2 セット、スローラインセット（スローライン 1、スローバッグ 2）を最大 3 セットを場内へ持込むことができる。クライミング道具に忘れ物があっても取りに行くことはできない。
- ・出場チームは PPE を正しく装着し、ギアなどはすべて手に持った状態で場内へ入ることができる。
- ・クライミングギア、リギングギア、チェーンソーなどすべて物（インジャリフリーのものは除く）の落下は即時停止、失格となる。
- ・競技エリア外へのスローは 1 回警告、2 回目以降減点、人（チームメイト、観客）に当ててしまった場合は失格（ジャッジは除く）となる。
- ・クライマー 1 名、グラウンドテクニシャン（グラウンドワーカーリーダー）1 名、グラウンドワーカー 2 名、マルチ 1 名（クライマーもできるが第 1 クライマーになれない）ジャッジがわかるように腕章をつける。

競技開始

- ・全員がそろったところでヘッドジャッジの合図でスタートする。
- ・グラウンドテクニシャンは作業プランをヘッドジャッジに話さなくてはならない。
- ・クライミングロープで上げることができるのはリギングロープのみとする。スローラインでブロックやチェーンソーなど重いものを上げることはできない。
- ・プランニング・ゾーニングを行いヘッドジャッジに話さなければいけない。ドロップゾーンは特に具体的にゾーニングする。

クライミング

- ・クライミングヒッチはブレイクスヒッチ（5 コイル、4 コイル）、ディステル、シュワビッシュ（5 コイル、6 コイル）のみ使用を可能とする。
- ・クライミング前の点検は怠ってはならない。（プルチェック、BARKチェック、バウンスチェック）
- ・クライミングアンカーはスローラインがかかっている状態よりスタートする。
- ・樹上で必ずタイインして樹上でのインスペクションを行う。
- ・クライマーはいかなる時もオフロープ、アンコントロールスイングはしてはいけない。
- ・大きなスイングは失格となる。
- ・クライミングロープにエンドノットがないと減点される。
- ・クライマーは適切なスピードで地上に戻らなくてはならない。
- ・空中（幹等に足をついていない）でのボディスラスティングは禁止とする。
- ・マルチが登る場合はあらかじめヘッドジャッジにプランニングを説明ししアンカーの場所など許可を取らなくてはならない。もし許可なくクライミングを行った場合は失格とする。
- ・アクセス用のロープを取り付け中に落としてしまった場合は時間内であれば持ち込んだスローラインで再度セッティングすることができる。
- ・マルチが樹上にいるときは基本的にクライマーのサポートをする。そのためにカッティングとリムトスを行うことができない。
- ・ゾーニングで行ったドロップゾーンに入るときには「入ります」などのコールを行いクライマーの確認を取らなければいけない。許可を得ないでドロップゾーンに入った場合はもし入ったとみなされた時は、ジャッジが10カウントするまで、全員 動くことができない。減点にはならない。

リムウォーク・リムトス

- ・リムウォークはオフロープになってはいけない。
- ・適切なランヤードの位置でタイインしなくてはならない。
- ・タイインした後、コールをしてノコギリを両手で扱い鈴を鳴らさなくてはならない。
- ・鈴を鳴らしたのちにリムトスを行うことができる。
- ・リムトスの本数は5本、地上のターゲットは3か所あり点数が違う。
- ・リムトスが終了後は枝に負担をかけないように戻らなくてはならない。

チェーンソーの受け渡し

- ・チェーンソーはクライマーが樹上へ持って行ってもよい。グラウンドワーカーが技術を駆使して樹上へ持ちあげてもよい。
- ・チェーンソーは樹上で必ず落ちないように何かの処置がされなくてはならない。
- ・樹上でチェーンソーからストラップを抜いてはならない。
- ・クライマーとグラウンドワーカーは適切なコールをしなくてはならない。

- ・チェーンソーはクライマーが持って降りてもグラウンドワーカーが技術を駆使しておろしてもよい。
- ・チェーンソーはライフサポートのもので吊り下げてはいけない。(クライミングロープ・カラビナなど)

移動、リギングロープの設置

- ・ロードへの結びは認められた結びを使用しなくてはならない。
- ・グラウンドワーカーはフリクションコントロールデバイスを設置しなくてはならない。
- ・クライマーとグラウンドワーカーは連携してリギング作業の模擬をしなくてはならない。
- ・クライマーは適切にタイインしてロードのカットの模擬を行う。模擬をしたのちチェーンソーカバーを付け、腰に適切にチェーンソーを付けて両手で鈴を鳴らさなくてはならない。
- ・グラウンドワーカーはリギングロープをフリクションコントロールデバイスに適切にまかなければいけない。
- ・クライマーとグラウンドワーカーは適切なコールをしなくてはならない。
- ・もし、事故を起こす可能性の模擬の場合、ヘッドジャッジが時間を止めて欠点を話し再開する。時間内であれば変更できる。

クリーンナップ

- ・ヘッドジャッジがOKの声でリギングギアのクリーンナップを始める。
- ・クライマーとグラウンドワーカーは適切なコールをしなくてはならない。
- ・クライミングアンカーはスローラインだけが残った状態にする。
- ・チェーンソーは元の場所、状態に戻さなくてはならない。
- ・一度フィールドの外に出た時点で場内に戻ることはできない。

時間

- ・全員が場外へ出たところで時計が止まり終了タイムが計測される。
- ・スタートから設定タイムを経過したところで終了。速やかに撤収しなくてはならない。
- ・点数が同点の場合終了タイムが早い順番に点数が加算される。
- ・選手は走ってはいけない。もし走ったとみなされた時は、ジャッジが10秒カウントするまで、全員 動くことができないが、何度走っても減点にはならない。
- ・競技会場や設定により競技時間が変更になる場合がある。

② アーボリスト ツリークライミング スコアシート (1)

チーム名			ジャッジ名	
制限時間（20～30分）	開始 時 分	終了 時 分	所要時間	

それぞれOKならチェック（✓）してください。チェックしたら1点となります。

ツリー・アンド・サイト・インスペクションとプランニング

ツリーインスペクション		サイトインスペクション	
プランニング	-5 0 5 10 15		
ゾーニング	-5 0 5 10 15		
		小計①	

クライミング

クライマー		グラウンドワーカー			
2人でアンカーチェックを行ったか		2人でアンカーチェック行ったか (3人目は樹上の動きを見ること)			
B A R Kチェックを行ったか		コールバック			
バウンズチェックを行ったか		コールバック			
エンドノットがあるか		次の段取りをしているか (G.Wのみ)			
樹木に負担がかからない登り方か		アドバイス (なければ確認しているか)			
チームワーク	- 5	0	5	10	15
小計②					

リムウォーク

クライマー		グラウンドワーカー	
枝の揺れが激しくないか（行き）		アドバイス（なければ確認しているか）	
オフロープになっていないか（行き）		アドバイス（なければ確認しているか）	
ポジショニングができているか		アドバイス（なければ確認しているか）	
コールをしたか		コールバックをしたか	
両手で鈴を鳴らしたか		次の段取りをしているか（G.Wのみ）	
チームワーク	- 5 0 5 10 15		
			小計③

リムトス

クライマー				グラウンドワーカー			
コールをしたか		1投目		コールバック			
コールをしたか		2投目		コールバック			
コールをしたか		3投目		コールバック			
コールをしたか		4投目		コールバック			
コールをしたか		5投目		コールバック			
枝の揺れが激しくないか（戻り）				アドバイス（なければ確認しているか）			
オフロープになっていないか（戻り）				アドバイス（なければ確認しているか）			
チームワーク	- 5			0	5	10	15
							小計④

② ツリークライミング スコアシート （２）

リギング			
クライマー		グラントワーカー	
ポジショニングができているか		アドバイス（なければ確認しているか）	
コールができているか		コールバック	
チェーンソーの受け渡し		チームで動いているか	
-	-	ローディングデバイスの装着（G.W）	
-	-	タグラインの装着	
リギングロープの取り扱い		リギングロープの取り扱い	
適切な結び方か		-	-
チェーンソーカッティングポジション		-	-
コール		コールバック	
適切なチェーンソーの取りまわしか（ヒンジカット）		アドバイス（なければ確認しているか）	
受け口の処理		コールバック	
チェーンソーカバー		-	-
腰への装着		-	-
コール		コールバック	
鈴を両手で鳴らしたか		-	-
チームワーク	- 5 0 5 1 0 1 5		
			小計⑤

クリーンアップ			
クライマー		グラントワーカー	
チェーンソーを適切におろしたか		チェーンソーの下降に対応したか	
-	-	チェーンソーをもとの場所に戻したか	
-	-	リギングロープの取り扱い	
-	-	タグラインの取り扱い	
-	-	地上のギアをもとの場所に戻したか	
適切なスピードで降りてきたか。		-	-
オープンロープのコール		オープンロープのコールバック	
クライミングロープの回収		クライミングロープの回収	
チームワーク	- 5 0 5 1 0 1 5		
			小計⑥

場外スロー	- 3	警告	スローバックを人に当てる	失格	
ジャッジポイント	- 3	- 2	- 1 0 1 2 3 4 5		
					小計⑦

総合得点（小計①＋小計②＋小計③＋小計④＋小計⑤＋小計⑥＋小計⑦）		点
-----------------------------------	--	---

Rigging & Load transfer

（リギングギアを使用し材を所定の場所へ安全に動かす。）

状況説明

- ・樹上 3 か所にリギングロープの通ったブロックが設置されている。
- ・ロードが地上にある。
- ・1 本の樹にはウインチが設置されている。
- ・地上にはフリクションコントロールデバイス×3、スリング×9、ブロック×4、フィドルブロックなどのメカニカルアドバンテージギア×3などがリギングギアコーナーに置かれている。（これ以外のギアを使用してはいけない）
- ・トロリーが置かれている。
- ・ヘッドジャッジが指定した競技エリアは選手とジャッジしか入れないように囲われている。

競技説明

地上にあるロードを 3 本のリギングロープで結び、様々なリギングギアを駆使して障害物を乗り越えて目的の場所へ手を触れることなく移動させ、トロリーに乗せる。リギングロープをほどきロープをロープバックに収めブロックの下に置く。トロリーはロードを乗せて目的の場所へ移動する。チーム全員がフィールドの外に出れば競技の終了となる。標準競技時間は 20 分。

ルール

競技前

- ・出場チームは全員が揃わなくてはならない。5 分以上の遅刻で出場権がなくなる。
- ・出場チームは PPE を正しく装着していなければ、場内へ入ることができない。
- ・用意されたリギングギアのみ使用できる。

競技開始

- ・全員がそろったところでヘッドジャッジの合図でスタートする。
- ・リギングロープを材に結ぶ際は（必要に応じてハーフヒッチ又はマリーンヒッチを併用した）ランニングボーライン又はクローブヒッチ+2ハーフヒッチにて結束しなければならない。ノットに不備があると減点され、ヘッドジャッジより修正の指示がでる。
- ・ロードが浮いた時点よりロードに手を触れると減点になる。
- ・タグラインは必要があればつけることができる。
- ・リギングロープは 3 本とも直接ロードに結ばれていなくてはならない。

競技中

- ・フリクションコントロールデバイスや地上のブロックなどの地上のギア類は何度でも付け替えることができる。
- ・タグラインは必要があればつけることができる。
- ・人力のみで移動させているとみなされた場合は大きな減点対象となる。（パワーブレー）
- ・ロードの上昇にはウインチ、またはフィドルブロックなどのメカニカルアドバンテージを使用しなくてはならない。

- ロードの下降にはフリクションコントロールデバイスを使用しなくてはならない。
- ロードを目的の場所へ移動しトレーリーに安定した状態で乗せたらリギングロープを外すことができる。
- リギングロープを外した状態でロードが安定している状態になるまでトレーリーを動かしてはいけない。
- ロードの移動後、リギングロープは元の状態にしなくてはならない。
- ロードはトレーリーに乗せて指定された場所へ移動しなくては点数が入らない。
- すべての工程を終了後、全員が場外へ出たところで時計が止まり終了タイムが計測される。
- 一度フィールドの外に出たら、戻ることはできない。

時間

- スタートから 20 分を経過したところで終了。速やかに撤収しなくてはならない。
- 20 分より早く競技終了した場合には点数が加算される。
- 選手は走ってはいけない。もし走ったとみなされた時は、ジャッジが 10 秒カウントするまで、全員 動くことができないが、何度走っても減点にはならない。
- 競技会場や設定により競技時間が変更になる場合がある。

③ リギング & ロードトランスファー スコアシート

チーム名						ジャッジ名	
制限時間 (20分)	開始	時	分	終了	時	分	所要時間

スタート (ロードを動かすまでの準備)							
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
結びができていたらチェックする	1か所目		2か所目		3か所目		
ノット間違えの減点 (-3)	1か所目		2か所目		3か所目		
ロードが動くまでの時間	時 分					小計①	

上昇							
ロードの水平	- 2 - 1 0 1 2						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
手を触れた回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 x- 1	
パワープレーの回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 x- 5	
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
						小計②	

移動							
ロードの水平	- 1 0 - 5 0 5 10						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
手を触れた回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 x- 1	
パワープレーの回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 x- 5	
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
						小計③	

下降							
ロードの水平	- 1 0 - 5 0 5 10						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
手を触れた回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 x- 1	
パワープレーの回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 x- 5	
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
						小計④	

着地							
ロードの水平	- 1 0 - 5 0 5 10						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
手を触れた回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 x- 1	
パワープレーの回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 x- 5	
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
トローリーが動くまでの時間	時 分					小計⑤	

トローリーでの移動							
ロードの水平	- 1 0 - 5 0 5 10						
アイデア	- 5 0 5 10 15						
手を触れた回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 x- 1	
パワープレーの回数	ここに正の字で書き、集計してください。					回 x- 5	
チームワーク	- 5 0 5 10 15						
						小計⑥	

ジャッジポイント	- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5	
										小計⑦

総合得点 (小計①+小計②+小計③+小計④+小計⑤+小計⑥+小計⑦)										点
------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

Arborist Aerial Rescue

(安全に樹上ヘクライミング。要救助者：ヴィクティムを地上までおろす。)

■ 状況説明

- ・高さ 10～15m 付近にクライミングアンカーにアクセスロープがセットしてある。アクセスロープは自身のクライミングロープに変更しても構わない。
- ・高さ 4～6m にクライミングロープにぶら下がり、ランヤードをした状態で要救助者がいる。
- ・要救助者のアンカーは救助者のアンカーから約 4m 離れている。
- ・要救助者の状況は大会により変化する。
- ・大会によりリギングのシステムも樹上に存在することもある。
- ・状況により要救助者がチェーンソーを持っていることもある。
- ・地上には刃のないチェーンソーも置かれている。
- ・ヘッドジャッジが指定した競技エリアは選手とジャッジしか入れないように囲われている。
- ・会場により高さや幅は変更する。

■ 競技説明

ヘッドジャッジのスタートの合図で時計はスタートする。チーム内の個人の役割はクライマー、指揮者、ビレイヤー、連絡役、マルチスタッフに分かれる。

クライマーは要救助者を樹上に登り助ける。指揮者は全体を見て的確な指示を出す。ビレイヤーは地上でロープをビレイし地上に降りる人を確保する。連絡役は救急車を呼んだり AED を持ってきたり現場と病院や野次馬などのオーディエンスとの連絡役をする。マルチスタッフはクライマー、グラウンドワーカーなどどのようなサポートもすることができる。チームの準備ができ次第、指定されたアンカーでクライミングを行い、チーム全員で役割を守り、安全かつ迅速に要救助者を地上に降ろす。要救助者のカラビナを外して場外の指定ポイントまで行くと時計が止まる。役割にはできないことがある。

標準競技時間は 30 分

■ ルール競技前

- ・出場チームは全員が揃わなくてはならない。5 分以上の遅刻で出場権がなくなる。
- ・出場チームはクライミングの道具（ロープ、フリクションセーバー、サドル、ランヤード、ノコギリ、etc）最大 2 セット、スローラインセット（スローライン 1、スローバッグ 2）を最大 2 セット、場内へ持ち込むことができる。必要であるならばサドルとエイトカン及びエイトカンで使用するカラビナは必要数持ち込むことができる。すべての道具で忘れ物がある場合は取りに行くことはできない。
- ・出場チームは PPE を正しく装着し、ギアなどはすべて手に持った状態で場内へ入ることができる。
- ・クライミングギア、リギングギア、チェーンソーなどすべて物（インジャリフリーのものは除く）の落下は即時停止、失格となる。
- ・クライマー、指揮者、ビレイヤー、連絡役、マルチスタッフは役割を明示した腕章等をつける。
- ・クライミングシステムとしてメカニカルギアや SRS は使用できない。
- ・事前のギアインスペクションを通していないものでも開始 10 分前にギアのインスペクションをヘッドジャッジに申告し、認められれば使用することができる。

■ 競技開始

- ・全員がそろったところでヘッドジャッジの合図でスタートする。
- ・選手は走ってはいけない。もし走ったとみなされた時は、ジャッジが10カウントするまで、全員 動くことができない。減点にはならない。

クライマー：出来ないこと「救急車を呼ぶ」、「AED を探す」、「野次馬の排除」、「要救助者のビレイ」

役割：第1クライマーとしてクライミングを行い要救助者の元に行きチームと協力して救助する。

指揮者：出来ないこと「救急車を呼ぶ」、「AED を探す」、「野次馬の排除」、「クライミング」

役割：全体の指揮を主に行う。エイト環にてグラウンドでビレイを行うこともできる。

ビレイヤー：出来ないこと「救急車を呼ぶ」、「AED を探す」、「野次馬の排除」、「クライミング」

役割：主にビレイを行うと共に要救助者の受け入れ態勢を整える。

連絡役：出来ないこと「要救助者のビレイ」、「クライミング」

役割：救急隊への連絡を主に行う。救急隊が到着するまで現在の状態などを伝え続ける。

マルチスタッフ：クライマーが対応できない場合に登ることができる。しかし最初のプランニングで登ることはできない。第1クライマーの要請によりプランニングの変更があり、初めて登ることができる。その際に第1クライマーがクライミングアンカーの確認なども行わなければならない。

できること：どの役割もすることができる。又、クライマーが手伝ってほしい時はクライミングを行う可能性もある。

■ スタート

- ・各役割にあった行動をすることができる。
- ・事前にわかっている内容をプランニングして内容を提出または、時間内にプランニングを行いジャッジとチームに話さないといけない。
- ・救急車などの連絡はセーフティゾーンに置いてある携帯電話で行う。救急車の到着時間はヘッドジャッジが決め競技者は勝手に決めることができない。
- ・AED は会場の何処かにある。（どこにあるかはヘッドジャッジより事前に説明がある。）
- ・野次馬役は担当スタッフが務める。

■ クライミング

- ・メインのクライミングロープは必ずフリクションセーバーが必要。
- ・クライミングヒッチはブレイクスヒッチ（5 コイル、4 コイル）、ディステル、シュワビッシュ（5 コイル、6 コイル）のみ使用を可能とする。
- ・クライミング前の点検はおこたってはならない。（プルチェック、BARKチェック、バウンスチェック）
- ・樹上で必ずタインしてインスペクションを行う。
- ・クライマーはいかなる時もオフロープ、アンコントロールスイングはしてはいけない。大きなスイングは失格になる。
- ・クライミングロープにエンドノットがないと減点される。
- ・クライマーは適切なスピードで地上に戻らなくてはならない。
- ・空中（幹等に足がついていない状態）でのボディスラスティングは禁止とする。
- ・グラウンドワーカーはヴィクティムへの声をかけ続ける。
- ・2人目のクライミング時はアンカーの場所などヘッドジャッジに許可を得なくてはならない。
- ・2人目もクライミング前の点検を怠ってはならない。
- ・チームは事前に設置されているアクセス用のロープを使用するか、開始後チームで準備したロープに変更

することもできる

- ・競技エリア外へのスローは 1 回警告、2 回目以降減点。投げたスローバックが人（チームメイト、観客）に当たってしまった場合は失格（ジャッジは除く）となる。

■ ヴィクティムへのアクセス

- ・リムウォークはオフロープになってはいけない。
- ・適切なランヤードの位置でタイインしなくてはならない。
- ・グラウンドワーカーはクライマーの手伝いをすることができる。
- ・ヴィクティムへたどり着いたら意識、呼吸、脈拍の確認をおこない地上に伝える。
- ・ロープの状況、リギングがあればリギングの状況を確認し地上に伝える。
- ・リギング道具で人を吊ることを禁止する。
- ・止血や保定など適切な処置をしなくてはならない。
- ・プランの変更点があればグラウンドに伝えなくてはならない。
- ・クライマーはアンカーの架け替えはすることはできない。
- ・ヴィクティムのアンカーを変えなければいけない場合はクライマーが状況を指揮者に話し指揮者からヘッドジャッジに許可を取り（アンカーの指定）救助方法の変更を行わなければいけない。許可を取らずに行った場合は失格とする。
- ・ヴィクティムのアンカーは必ずプルチェックなどのすべての安全確認を行ったうえで使用すること。

■ クライミングダウン

- ・TARS で推奨する基本的な降ろし方でバックアップを確実に取りヴィクティムを降ろす。
- ・グラウンドワーカーと連携して降ろさなくてはならない。
- ・クライマーが降りるときはコールを必ずしなくてはならない。
- ・グラウンドワーカーはクライマーが地上に足が着くまでに地上で要救助者の受け入れ態勢を整えなければいけない。
- ・グラウンドワーカーは常に要救助者に対して声をかけ続けなくてはならない。
- ・一度フィールドの外に出た時点で場内に戻ることはできない。

■ 時間

- ・全員が場外へ出たところで時計が止まり終了タイムが計測される。
- ・スタートから設定タイムを経過したところで終了。速やかに撤収しなくてはならない。
- ・点数が同点の場合終了タイムが早い順番に点数が加算される。
- ・ヘッドジャッジのスタートの合図より始まり、時計が止まるタイミングは設定により変化がある。
- ・選手は走ってはいけない。もし走ったとみなされた時は、ジャッジが10秒カウントするまで、全員 動くことができないが、何度走っても減点にはならない。
- ・競技会場や設定により競技時間が変更になる場合がある。

④ アーボリスト エアリアル レスキュー スコアシート (1)

チーム名				ジャッジ名	
制限時間 (30分)	開始	時	分	終了	時 分 所要時間

それぞれOKならチェック (✓) してください。チェックをしたら1点となります。

リスクアセスメントとレスキュープラン			
救急車の手配		ツリーインスペクション	
AEDの手配		サイトインスペクション	
野次馬の排除		レスキュープラン	
レスキュープラン内容			
チームワーク	-	5	10
			小計①

アッセント&要救助者への移動			
クライマー		グランドワーカー	
2人でアンカーチェック行ったか		2人でアンカーチェック行ったか (3人目は樹上の動きを見ること)	
BARKチェック行ったか		コールバック	
バウンスチェック行ったか		コールバック	
エンドノットがあるか		次の段取りをしているか (G.Wのみ)	
樹木に負担がかからない登り方か		アドバイス (なければ確認しているか)	
-	-	要救助者への声掛け	
リムウォーク			
枝の揺れが激しくないか (行き)		アドバイス (なければ確認しているか)	
オフロープになっていないか (行き)		アドバイス (なければ確認しているか)	
ポジショニングができているか		アドバイス (なければ確認しているか)	
チームワーク	-	5	10
			小計②

要救助者の確認、要救助者の取り扱い			
クライマー		グランドワーカー	
要救助者の状況の確認を行ったか。		要救助者の状況の確認を行ったか。	
要救助者への処置を行ったか。		処置に対するサポートを行ったか。	
処置方法など			

④ レスキュー スコアシート (2)

要救助者の確認、要救助者の取り扱い									
レスキュープランの変更などをグラウンドと話したか。									
降下へ向けての要救助者の確保を行ったか。									
グラウンドにビレイの指示をしたか				ビレイをクライマーと連携したか					
レスキュープランに沿った方法か				レスキュープランに沿った方法か					
チームワーク	-	5	0	5	1	0	1	5	
小計③									

降下									
クライマー					グラウンドワーカー				
コールをしたか					コールバックをしたか				
-					要救助者に対しての処置を行える準備はできているか				
適度なスピードで降りてきているか。					ビレイコントロールしているか。				
-					声掛けは継続しているか。				
チームワーク	-	5	0	5	1	0	1	5	
小計④									

着地									
クライマーは即座にグラウンドに要救助者を引き渡しているか。									
グラウンドはクライマーのサポートをしているか。									
グラウンドは要救助者の適切な処置を受けついでいるか。									
チームワーク	-	5	0	5	1	0	1	5	
小計⑤									

役割ポイント												
クライマー		- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5		
指揮者		- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5		
ビレイヤー		- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5		
連絡役		- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5		
マルチスタッフ		- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5		
チームワーク			- 5	0	5	1 0	1 5					
											小計⑥	

場外スロー	- 3		警告	スローバックを人に当てる							失格	
ジャッジポイント	- 3	- 2	- 1	0	1	2	3	4	5			
										小計⑦		

総合得点 (小計①+小計②+小計③+小計④+小計⑤+小計⑥+小計⑦)	点
------------------------------------	---